

# 競技上・審判上の注意事項

## 1、競技上の注意

- ① 本大会は2022年度の公益財団法人「日本バドミントン協会」の定める競技規則及び大会運営規定、並びに公認審判員規定に基づいて競技を運営する。
- ② 男子の試合はタイムテーブルの指定コート（1・3・4・6コート）で行う。  
女子の試合はタイムテーブル2列目までは指定コートで、3列目以降は流し込み方式で行う。  
コールされてから5分以内にコートに入らない場合は「失格」とする場合がある。
- ③ 男女とも学年別にトーナメント戦を行う。3位決定戦は実施しない。
- ④ 初戦のみトスの後、試合を開始する前に3分間以内の練習を認める。（相手が初戦の場合は一緒に練習可）
- ⑤ プレイヤーが連続して試合をする場合、原則として10分間程度の空き時間を入れる。
- ⑥ 競技中の事故（ケガ）については、応急処置の手配は行うが、以後の責任は負わない。

## 2、審判上の注意

- ① 21点2ゲーム先取の3ゲームマッチで行い、20点オールになった場合、最大30点まで延長ゲームを行う。  
但し、試合の進行状況により、大会本部の判断で点数の変更をすることがある。
- ② 先行するサイドが11点になった時に60秒以内、ゲーム間に120秒以内のインターバルを認める。
- ③ サービスの際、シャトル全体が床面から115cm以下でなければならない。審判はポストのテープを判定基準とする。
- ④ 審判員は、敗者が次の試合の主審と線審の一人を、勝者が残りの線審の一人を担当する。  
タイムテーブル1列目の試合の審判は、タイムテーブルの2列目の人、又は本部スタッフが担当する。  
主審は審判用紙に、主審サイン・試合終了時刻を記入し、本部席に持参しチェックを受ける。
- ⑤ アドバイスはインターバル時のみとする。但しコートに入れるのは2名までとする。
- ⑥ 着衣は原則として公益財団法人「日本バドミントン協会」公認の物を着用する。
- ⑦ 試合中のシャトル交換は、主審が必要かどうかを決める。

## ■ 2022年度 コロナ対策上の特別審判方式

- ① 主審はゲーム開始時の選手名のコールはしない（トス時に選手の名前を確認する）
- ② シャトルの交換は主審が渡さず、選手自身が主審の了解を得てカゴの中から各自で行う。  
（新球用・使用済み用のカゴを主審の足元に用意する）
- ③ ゲーム終了後、勝者サインはもらわず、勝者に自分たちの名前に○が付いているか確認してもらう。
- ④ 線審の「イン・アウト」の判定はコールせず、手のシグナルのみで行う。
- ⑤ 線審は各椅子に設置してある消毒用具で、椅子を消毒してから座る。  
（椅子の下のカゴの中に除菌シートを用意、背もたれにゴミ袋を設置する）

## 3、体育館使用上の注意

- ① 外履き・室内履きの区別を必ず行う事。
- ② アリーナ内の飲食は禁止する。アリーナ内ではキャップの出来る飲料のみ可とする。
- ③ 体育館施設は敷地内全館禁煙です。
- ④ ゴミは各自必ず持ち帰る事。
- ⑤ 身の回り品の管理には各自十分注意する事。万一事故があった場合、責任は負わない。
- ⑥ 会場内での個人的な写真・ビデオ撮影は出来ません。
- ⑦ 大会結果等の記録写真はホームページに掲載公開されることがある。